

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	西巣鴨・学びの保育園
活動日時	令和6年 10月 17日(金)
クラス名(年齢)	けやき組(5歳児)
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然

<テーマ設定理由(子どもの姿)>

・以前より、食育でサツマイモなどの食物に触れたり、図鑑をみたりと、興味を持つ様子が見られた。また、じゃがいもひめとさつまいもひめ、という絵本では、じゃがいもやサツマイモでつくる料理やお菓子が好きであることを話す様子が見られた。また、戸外活動では、自然の生き物に興味を持ち、ダンゴムシやイモムシを観察したり、触れたりする様子が見られた。畑の野菜を収穫したり、土に触れたり、その中で育つ生き物を実際に見る機会が今までなかったため、法人の畑でサツマイモを育てることとなった。苗植えは担任が行い、その時の畑の様子を写真に撮り、保育室の壁に貼ると、「これがサツマイモなんだ」「育つといいね」「美味しいかなあ」「そういえば前はさつまいも堀が遠足であったよね」など興味をもって話す子どもたちの様子が見られた。さつまいもが育ったので、保育園の代表として5歳児がサツマイモ堀をすることとなった。

2. 活動スケジュール

- ・畑の写真を保育室に貼り、収穫前の様子を知らせる。興味がわくようにする。
- ・育ったさつまいもを収穫する。
- ・収穫したサツマイモを使って調理をする。味わう。

3. 環境をデザインする(活動のために準備した素材や道具、環境設定)

・サツマイモ、畑の写真、図鑑、スコップ、軍手

4. 探求活動の実践

<活動内容>

・サツマイモの収穫をする。・畑の土や虫に触れ合う。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの声・姿	写真
<p>「これがサツマイモなの?」「サツマイモ畑?」 苗付けしたときの写真と比べて、葉が茂ってツルが伸びているサツマイモの姿に、少しびっくりした様子。 ・「引っ張ってもなかなか抜けないね」「土を掘らないと!」 根を引っ張るだけでは、サツマイモ本体が抜けないことに気が付き、子どもたち同士で土を掘ろうと声を掛け合う。 ・「わー!イモムシが出てきた!!」「嫌だ、気持ち悪い」「そっとしておいてあげよう。別の場所に埋めてあげよう」 土を掘る中で、イモムシやダンゴムシを見つける。虫に対して恐怖心を見せる子や、しばらく観察した後、また埋めてあげる子など、反応は様々であった。 ・「大きな根っこが出てきた!」 自分の身長くらいある根の長さに驚く。 ・「一人じゃ無理だよ、一緒に掘ってみよう!」 友だちに一緒に掘ろうと声をかける姿も見られる。 ・「土が気持ちいい!、触ってみて」 芋ほりよりも、土そのものの感触に楽しさを見出す子どももいた。 ・「帰ったら食べたいな~!」「いもパ(芋パーティー)したいね!」 帰りの会話で、どのようにして食べるか楽しみにしている様子だった。</p>	

5. 振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・芋畑の写真を見ていたので、芋に対する興味はあり、芋ほり遠足でたくさんの芋を掘ることを楽しみにしている様子があった。実際に芋畑を見ると、ツルが長く生えていて「これがサツマイモ?」とびっくりした様子が見られた。どの児も積極的にどこに芋があるかを探して掘ろうとしていた。大きな芋を見つけると、「ねえねえ、こっちに大きいやつあったよ!」と友だちに教えたり、掘るのが難しい場合は「根っこが太い、掘るのが難しいからだれか手伝ってー!」と友だちに声を掛けて助けを求め、協力して掘ることができていた。実際に土に触れ、みたことが無い虫を見つけられたり、土の感触を味わったりと、本物の土や芋に触れながら収穫したからこそ、新しい発見や興味、達成感に繋がられたのではないかと思う。